

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念「笑みがこぼれる家庭・・・それが私の誇りです」基本方針、ほおずき高岡の目標を掲げて、地域の中で家庭的な環境の中で規則や時間に縛られることなく自由に暮らせることを支援している。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び、職員は入居者の個性を大切に、障害があってもその人らしい暮らしが継続できるように理念の実践に向け取り組んでいる。	○	ホームの暮らしの意味を、入居者や家族に理解していただけるように理念の共有と実践に向け専門的な関わりを行っていく。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	平成18年度よりスタートした運営推進会議や地域交流を深めることで、障害があっても尊厳のある暮らしを理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	地域ボランティアの方や住民と一緒に、「認知症」の理解を触れ合いの中から見て、感じて、深めていただけるように、今後も交流に力をそそぎたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者及び全職員は、近隣の方々との交流を継続的に進め、深めている。近隣の方々と顔見知りになり、散歩時など気軽に挨拶を交わして頂ける。また、手作りのおやつを持参するなどのお付き合いが出来ている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会の行事には必ず参加し、継続している。夏祭り、カラオケ大会、地域の清掃活動に参加、ほおずき姫路高岡が開催する運営推進会議、ホームの行事・催し(敬老会や餅つき)に来訪して頂き、交流は多い。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者から子供まで、ふれあい喫茶活動等で更に地域貢献を進めたい。掲示板の活用で介護相談の開催や、ホーム独自で清掃活動を行うようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び第三者評価の意義を理解し、評価を活かして小さなことからコツコツと積み上げて、日々のケア改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの暮らしの報告、話し合いをして地域の方々の協力や家族の力、ボランティアの紹介などがありサービス向上に活かしている。		
9 ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に関して、地域包括に出席依頼するが参加不可能であった。市介護保険課との協力要請で、「認知症サポーター養成講座」を開催した。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会があるが、実際に利用しておられる方がいない為、詳しいことは知識不足な点もある。	○	成年後見制度を利用される必要がある入居者を通じて、活用方法を学んでいき、適切な支援を行っていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	一年に一回は高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、高齢者虐待防止法の知識を高めている。事業所内で虐待が見過ごされることの無い様に職員間で防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約時、契約書、重要事項を細かく説明し不安や疑問の解消に努めている。家族様にはホームの暮らしの理解、納得を図っている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	利用者の声(意見、不満、苦情)を真摯に受け止め職員間で共有しサービスの向上を運営に反映している。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ほおずき便り」を毎月発行し、行事予定や職員異動、ホームの暮らしを写真で伝えている。家族などにシーズンに対応した健康管理を啓蒙し、個々の利用者様に合わせた報告をおこなっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪が多い中、意見や要望を出しやすい、雰囲気作りに心掛けている。家族会に運営推進会議の参加者を多くし、意見を集約し業務への反映を実施している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と定期の会議や面談を通して、職員の意見や提案を聞く機会があり反映している。職員アンケートを行ない、意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整は利用者の状況に応じて柔軟な対応を随時行っている。受診・外出レク・行事等計画的に行えるものは、職員調整を十分に検討している。夜間の対応は、緊急時他利用状況に応じて2人夜勤対応も行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられる様に、マイチャレンジ(職員それぞれの目標管理)を通じ、各職員に応じた指導を行い、離職を最小限に抑えるように常日頃から職場環境に配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修プログラムに沿って人材育成をおこなっている。中堅職員は計画的にOJTとOFFJTの機会作りを行っている。	○	認知症介護実践者研修・リーダー研修に多くの職員が受講できるように人材育成に取り組んでいきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が地域のグループホーム連絡会の学習会・講習会に参加し、交流とネットワークづくりを通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2～3回の親睦会を行い、日々の中では職員の仕事ぶりなどから声かけ、気軽に相談できる環境作りを行っている。休憩場所や有休日の活用、配転等の配慮も行っている。	○	職員のストレス軽減解消に向けて、リフレッシュ休暇の導入を、ホームの職員体制で工夫し取組んでいきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	マイチャレンジの実施と人事考課にて個人の能力開発と、向上心を持てる職場環境作りの取り組みを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時は特に個別に密に関わり、ご本人が何に一番困って生活障害として表出しているかを見極めるよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一番困っている事、一番不安な事を傾聴しどうなりたいかを聴く機会を多く持ち、家族の信頼関係作りをしている。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時、ご家族の希望や質問に応じ他サービス利用も含めた対応を支援。その時々へのケアの方法や専門医への受診等を助言。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して暮らせるように、入居前には十分な話し合い、聞き取りを行い「入居前のまとめ」「バックグラウンド」をもちいて工夫している	本人が安心して暮らせるように、入居前には十分な話し合い、聞き取りを行い「入居前のまとめ」「バックグラウンド」をもちいて工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの一つ一つから利用者と共に協働生活を行い、喜怒哀楽を通して人生の大先輩から学び、自立支援の関係を築いている。	○	生活の中で、一緒にする機会を多く持ち利用者の存在と居場所作りに努める。利用者の穏やかな暮らしと、自立支援へつなげていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族の存在は、利用者の中で一番大切な関係であることを常に家族に伝え、共に支えあう関係作りに努めている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との絆づくり・利用者とのほどよい距離を保つ様、職員が間に入り今までの関係修復に力を注いでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のお友達が来訪されたり、地域行事参加することで馴染みの人を大切にしたい関わりや、機会作りを可能な限り支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の相性を理解し、時・場所に応じて一人ひとりが共に暮らす仲間としての存在を理解してもらうよう働きかけ、支えあえる様努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	特養入所や、入院によるサービス利用終了後もお便りや訪問などを行い、色々な相談を受け関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報シート「バックグラウンド」の聞き取りや、家族の協力から一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合の「出来る事」「出来ない事」シートの活用など常に本人本位のケアを検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に一人ひとりのバックグラウンドを詳しく聞き取りし、専門的情報としてサービス事業者、ケアマネージャー、医師からの情報を聞き取って把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日各職員が必ず声かけ行い、心身の状態把握とその方の一日の過ごし方を一緒に支援するように努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前には家族から情報シート「バックグラウンド」を記入してもらい、職員のアセスメントシートと合わせて利用者の希望をふまえたケアプラン作成を支援している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的に行い、利用者家族の意向をふまえて現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子は、細かく記録し個別のケース記録・バイタル表に身体面、情緒面の方向から実践したケア記録を記入して情報の共有を行っている。	○	今後も個別に解決すべき課題が表出した場合、センター方式などのツールを活用しながら焦点情報を共有し、介護計画の見直しや実践を行っていききたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設しているので、地域住民やボランティアも多く、多機能を活かした交流をしている。	○	今後も利用者家族の要望に応じて、柔軟な対応支援をいていきたい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの協力をいただき、地域資源の支援を受けている。	○	地域資源(学校、保育園、消防)などと協力しながら、より良く暮らし続けるよう支援していききたい。
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い適切なサービスを支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ権利擁護や総合的なケアマネジメント等の協同は行っていない。必要に応じて対応はしたいと思う。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の半分は協力医の往診を受けており、いつでも安心して医療を受けられる支援をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣において認知症専門医の確保を行い、いつでも安心して相談したり治療を受けられるように支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用 の支援をしている	隣接するデイサービスの看護師、かかりつけ医の看護師が相談にのっていただける。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病院関係者と細かい情報交換を頻回に行い、安心して治療が効果的に受けられるように支援している。退院時は早期に受け入れられるように家族や病院関係者と情報共有、連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、事業所は家族、医師などとの連携をとり、ホームの環境に応じた対応をしている。終末期のあり方について、方針及び方向性の共有を進めていきたい。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度・終末期の利用者への「出来る事・出来ない事」を見極め明確にしている。かかりつけ医とその他の医療関係者、家族の連携の中チームケアが受けられるように検討や準備を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホーム入居時は、本人と家族が体験していただき入居の説明を十分に行い、納得のいく関わりが出来るように個人背景・思いや生活習慣を大切にしたり関わりを行っている。ホーム退去時もホームでの暮らしの様子や思いをサマリー作成し関係者に情報共有できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	パートナーは一人ひとりの性格や行動を把握し、声かけの方法対応に際して適した支援を心掛けている。記録等の個人情報取り扱いには十分注意している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の心身の状態に合わせた希望の表出にさりげなく働きかけ、自己決定できる支援に努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほぼ一人ひとりの利用者の生活のリズムを大切に、'安全でゆったり'の支援を行い希望を叶えている。	○	職員の決まりや都合を優先するのではなく、本人の思いを大切にしたり関わりで、今までの大切な本人の力の発揮を支援出来る関わりを行って行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者全員女性であり、定期的なメイクエステ等の支援が定着化している上、おしゃれ等にも十分に支援できている。身だしなみは家族の協力を得たり、ホーム職員と買い物に行き支援に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みをメニューに取り入れる取り組みを行い、食事を楽しむ事ができる支援をしている。	○	一人ひとりの好みをもっとメニューに入れて力の発揮を支援していく。
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	慢性疾患のある方はかかりつけ医と相談しながら、本人の思いを大切にしながら嗜好の支援を行っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	常時、身体・精神状態に応じて、排泄支援を行い気持ちよい排泄支援を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日、時間帯は職員の都合で決めないで、ご利用者の希望を受け、入浴を楽しめる支援を行っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お昼寝の習慣や夜更かし、朝寝それぞれの習慣を大切にしている。灯りや音にも気をつけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに役割を持って、主体的に日々過ごせる様に生活歴や出来る事、出来ない事、得意な事、苦手なことを知り家事などを通して張りのある暮らしづくり取りに組んでいます。外出、散歩、趣味の活用など気晴らしの支援もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者がお金を持つ事の大切さを理解し、一人ひとりの力に応じて所持したり使えたりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の入居期間の長期化によるADLの低下に伴って、外出の機会は減少しているが、お花見・日帰りバス旅行はほぼ皆さん参加できた。日常的には事業所内フロア交流や、その日の希望に沿って戸外の散歩支援を行っている。	○	日常的な外出機会作りに、買い物外出を取組んだ。現状では固定的な対象になる為フロア間の交流や、隣接する事業所との交流を進めていくように取組んで行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	神戸方面へ日帰りバス旅行の実施をしたり、個別的には自家への里帰り訪問や兄弟宅への訪問の機会作りを支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をしたりかかってきたりして支援している。年賀状、暑中見舞いの手紙、ハガキのお便り支援を年2回している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人の訪問がしやすいように、来訪時は居心地よく過ごせるように、飲食の提供や、ベット、寝具の準備もあることを伝えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法禁止行為、身体拘束をしないケアを運営者及び職員が理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	今後も鍵をかけないケアの継続と車椅子の座ったままのケアや、「座ってください」を言わないケアに取り組んで行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室及びフロア玄関に鍵はかけていません。夜間(17:30~8:30)は安全(防犯)のため鍵をかけていますが、職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており安心のケアに取り組んでいる。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーを大切に、心身の状態に応じて昼は日勤リダー、夜は夜勤者が所在や様子を把握し安全に暮らせるように支援している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物(はさみ、つめ切り、剣山など)は本人の状態に応じて保管して頂いている。共有部での包丁、薬品類は所定の位置を決め保管。夜間は目に付かないところに保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット活動や事例を通して情報の共有など事故防止に取り組んでいる。定例会議、毎日の申し送りを通じて早期に情報共有できる仕組みを行っている。定期的に消防訓練をし、災害時の事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入社時、緊急時マニュアル配布、指導のほか定期の勉強会、年1回の応急手当、緊急時対応の訓練を行っている。	○	利用者の急変や事故が幸いほとんど無い為、職員にとっては不安感が大い。体験訓練から学び、危機管理を常にもってもらよう折に触れ話し備えて行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の非難訓練は定期的に行っている。入居者も一緒に訓練に参加していただき、理解、協力体制も把握しながら行っている。運営推進会議の開催をきっかけに、すこしづつ地域の協力が得られるよう働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時、心身の状況に応じて一人ひとりの起こり得るリスクについて家族に説明している。生活の中で抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策（鍵をかける、ベッドの位置）を相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異常時はリーダーから主任、施設長に報告。早期対応に結び付けている。気づきを高める訓練として朝礼、終礼時の情報共有を行っている。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報共有として一覧表の活用、申し送りの徹底を通じて職員が理解している。状態に応じてDrに薬の調整をお願いしている。服薬方法を理解し支援している。	○	調剤薬局の薬剤管理指導の活用や、個別の相談管理ができる取り組みを行い服薬の安全・適正な支援を行っている。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、毎日の牛乳飲用、水分摂取などで十分注意している。日常生活で掃除、洗濯干し、散歩、体操で予防に努めている。暮らしの中で身体を動かす機会を習慣づけしていく取り組みをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアとして義歯の手入れや食後の嗽などを一人ひとりの状態や力に応じて支援している。協力医の歯科医と協同で口腔衛生予防を行なっている。	○	協力病院の歯科医に治療して頂いているが、口腔衛生予防として定期的なケア（歯石の除去、義歯の管理）を行っていききたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の再検討を健康管理面から見直し、水分摂取量・排泄状況・食事摂取量の把握を行い、その人に合った食事形態を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成しており、対応方法を徹底している。新人パートナーには入社時に教育している。ホーム内会議や研修を通じて発生動向対策を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の生活の中で、手洗いうがいの習慣がついている。食中毒予防の為に台所衛生管理(まな板布巾の消毒)や安全な食材管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	掲示板を活用しグループホームとして、又介護施設として安心して出入りできるよう近隣の人たちにも親しみやすいホーム作りを工夫している。	○	建物の外観がマンションのように見られているので、GHとして周知していただけるように掲示板を設置し、行事やお知らせなど行い、近隣の人達に親しみやすいホームづくりを行っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感溢れる工夫や音楽を取り入れている。共用の空間には、観葉植物を飾ったり、ホームの利用者、職員の顔写真、外出や行事時の思い出の写真を飾り居心地よく過ごせるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の空間利用を行い、利用者一人ひとりの個別アルバムや図書を閲覧できるように居場所作りに工夫している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、利用者の馴染みの家具や思い出の品を出来るだけ持ってきてもらい居室づくりを家族と相談しながら一緒に居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	利用者の心身の状態に応じて、居心地よく過ごせる居室配慮を家族と一緒にしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の換気は気になる部屋を中心に行っている。その他温度調整は衣服及び空調でこまめに行っている。利用者の状態に応じて時間と温度計で調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー、手すり移動しやすいスペースが確保できている。各居室の一人ひとりの身体機能に応じて、安全で自立した生活支援が出来るように常に工夫し後付整備を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの出来ること、出来にくい事、好きな事、嫌いな事をパートナーがよく理解し、得意な事で力が活かせる工夫をし自立支援を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階に庭があり花や野菜づくりを行っている。ベランダにも季節の花、野菜を育て水遣り収穫を通して楽しみや活動の場になっている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の在居年数が長いにも関わらず、心はいきいきと表情も豊かでまさに、『笑みのこぼれる家庭』としての明るさがあるホームづくりが実践出来ています。環境的にも山や田畑が残りながら、学校やお店が近隣にあり、地域交流やボランティアの来訪交流も多く、社会性の多く持てる環境。介護予防が必然的に行えいつでも『その人らしい、姿、心』で暮らし続けています。職員も『幸せを叶えるホームづくり』の下各自のスキルアップとして、認知症サポーターのキャラバンメイトも3名と認知症ケア専門士も3名資格取得して、専門的な知識を持ったケアのかかわりを行っている。